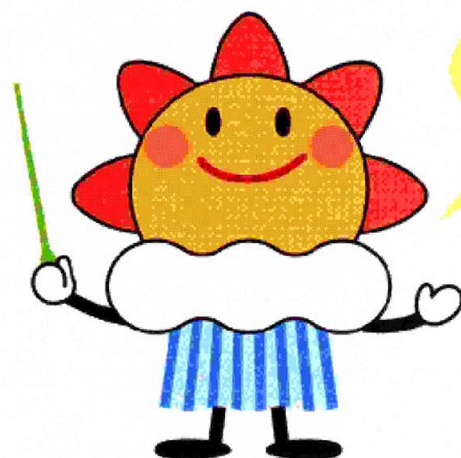


気象庁マスコットキャラクター『はれるん』デビューしました

気象庁への親近感をより深め、併せて気象業務の役割をイメージしていただくために、「気象庁マスコットキャラクター」（以下、キャラクター）を作成しました。

このキャラクターは、「太陽」、「雲」、「雨」などをモチーフとしており、「地球」をイメージすることのできるキャラクターです。また、キャラクターの手には、災害のない、調和のとれた地球への祈りを奏でる緑のタクトが握られています。



気象庁マスコットキャラクター
『はれるん』

「はれるん」
デビュー



このキャラクターの愛称は“明るくて”“可愛いらしいこと”“親しみを持って頂けることなど”をイメージして『はれるん』と呼ぶことに決定しました。

このマスコットキャラクターは、今後、気象庁の「気象科学館」や各地の気象台等で広報活動をお手伝いするとともに、自然災害の防止・軽減や地球環境問題などに取り組むための各種のイベントにも参加する予定です。

平成16年度気象大学校学生採用試験のお知らせ

今年度の気象大学校学生採用試験（高等学校卒業程度）は、次の要領で実施されます。
この試験には受験資格がありますので、詳しいことにつきましては、下記問い合わせ先等にて確認して下さい。

- 受験申込受付期間 8月26日（木）～ 9月7日（火）
[受付時間 9:00～17:00（土・日曜日は除く）]
- 第1次試験日 10月30日（土）及び10月31日（日）
- 第1次試験地 札幌市、仙台市、東京都、新潟市、名古屋市、大阪市、広島市、高松市、福岡市、鹿児島市、那覇市

この試験に関するお問い合わせは、気象大学校、最寄りの気象官署又は人事院の各地方事務局及び沖縄事務所で行っております。また、受験案内及び受験申込書の配布につきましても、併せて確認して下さい。

気象大学校 HP: <http://www.mc-jma.ac.jp/mcjma/index.htm>

◆ 平成16年（2004年）夏号 ◆

発行：気象庁総務部総務課広報室
住所：〒100-8122 東京都千代田区大手町1-3-4

気象庁HP: <http://www.jma.go.jp/>
TEL: 03-3212-8341（代表）

こんにちは！



気象庁です！

台風の予報円が小さくなります

気象庁は地域をより限定して台風に対する備えを効果的にできるよう、平成16年6月1日から台風の進路予報に使用する予報円をこれまでより小さくしました。

予報円とは、台風の中心が12、24、48および72時間後に到達すると予想される範囲で、台風の中心が予報円に入る確率は70%です。予報円の大きさは過去の予報結果に基づいて、台風の移動方向と速度に応じて予報時間毎に決定します。

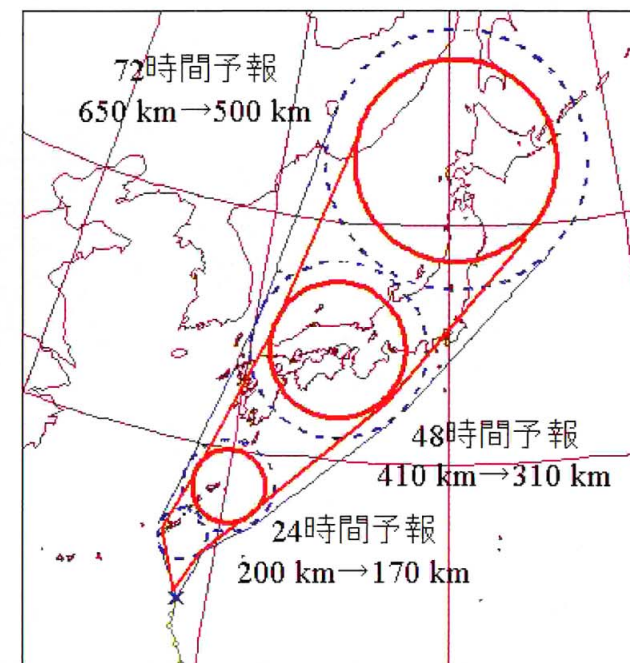


図 新旧の予報円の比較。2003年8月6日21時における台風第10号の予報例。青い点線が実際の予報に使用した予報円、赤い実線は新しい予報円。

これまでは1996～1999年の予報結果に基づいて決定した予報円を使用してきました。近年、数値予報技術の改善などによって予報の精度が向上しており、2001～2003年の予報結果に基づいて予報円の大きさを検討したところ、従来の予報円と比べて平均で約10%、最大で約25%、予報円の半径を小さくできることがわかりました。

2003年の進路予報の精度は、予報の平均誤差が24、48、72時間予報でそれぞれ120、222、349kmとなり、これまでで最も良い成績でした。

左図は新旧の予報円を比較した例です。予報円がこれまでより大幅に小さくなるのは48時間、72時間予報で、予報した移動速度が大きい場合です。これは

日本の南海上で転向したあと北上して、偏西風の流れに乗って加速していくような台風に当てはまり、日本に接近・上陸するような台風が含まれます。

今回の改善によって、暴風（風速25m/s以上）警戒域が小さくなるため地域をより限定して台風に対する備えを行うなど、効果的な防災活動ができるようになります。今後も毎年、台風の進路予報の精度を検証し、予報円の見直しを適宜行います。

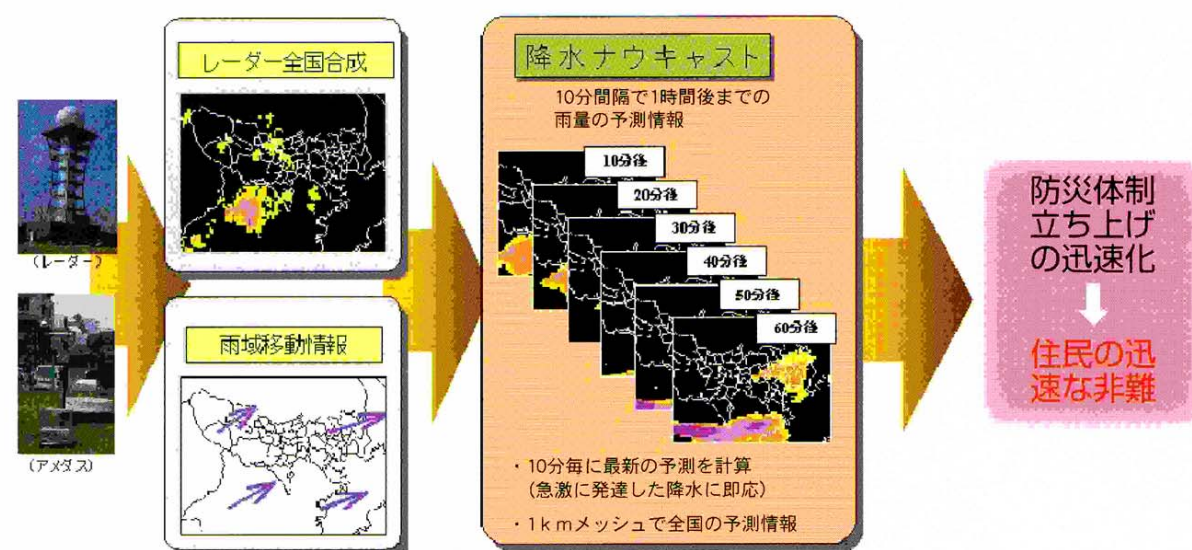
降水ナウキャストは、1時間先まで10分毎の降水量を、 日本全国1km四方毎に予測します

近年、短時間の強い雨により雨の降り始めから災害の発生までの時間が短い、いわゆる都市型水害が注目されています。気象庁では、こうした短時間の強い雨を予測する資料のひとつとして平成16年6月1日から「降水ナウキャスト」の提供を開始しました。

降水ナウキャストとは

降水ナウキャストは、日本全国を対象に1時間先まで10分毎の降水量を1km四方毎に予測するものです。予測には、レーダーによって10分間隔で観測された降水の強さの分布に、アメダスの雨量データにより補正して作成した初期値と、別に計算した降水域の移動情報を利用しています。

都市部を中心とした豪雨による洪水・浸水等の被害の軽減



10分毎に最新の情報に基づく予測を行うことから、急速に発達する雨雲の変化や移動を捉えることができるようになります。降水ナウキャストによる1時間先までの予測と、既に提供している降水短時間予報による6時間先までの予測とを併せて利用することにより、短時間の強い雨に対する迅速かつ確かな防災活動を支援できるものと期待しています。

降水ナウキャストの提供について

6月1日から、内閣官房等の関係省庁や準備の整った都道府県のほか、(財)気象業務支援センターを通じて民間の気象事業者に提供を開始しました。気象庁HPでの公開については、今年度内を目途に開始できるよう、準備を進めています。

降水ナウキャストの例

平成16年5月31日の兵庫県での降水ナウキャストの例を紹介します。

下の図は、兵庫県神戸市周辺を拡大したものです。

図(a)は降水ナウキャストの初期値となる12時30分(日本時)の雨雲の様子です。加古川市付近に強い雨雲が観測されています。

図(b)は初期値から40分後の13時00分から10分間の降水量の予測です。加古川市付近にあった強い雨の領域が東北東へ移動し、三田市方面に進む様子が予測されています。この強い雨の領域では、10分間で7～9ミリ(1時間あたり40～50ミリに相当)の激しい雨が観測されました。

図(c)は13時10分に観測された雨雲の様子です。図(b)で予測されたように三田市付近では強い雨雲が観測されています。

12時30分の予測開始の時点で、三田市付近では30分後の13時頃から急に雨が強くなること、強い雨はあまり長い時間続かないことなどが予想されます。

このように、10分毎に1km四方毎の10分間雨量を予測する降水ナウキャストを効果的に利用すれば、都市型水害などの災害防止に役立てることが可能になるものと期待しています。

